



大図研京都ワンディセミナーのご案内

テーマ：『「図書館活用法」授業評価活動

明治大学図書館におけるリテラシー教育評価の実践』

概要：2012年のALA Annual Conferenceで明治大学和泉図書館の矢野恵子さんが発表された内容をベースに、「図書館活用法」授業評価活動をテーマに、明治大学におけるリテラシー教育評価の実践についてご報告をしていただきます。明治大学の取組み事例を参考に大学図書館における教育とのつながりについて理解を深めたいと思っています。

講師：矢野 恵子 氏(明治大学 和泉図書館)

日時：2013年5月25日(土) 13:30～17:00 (13:15 開場)

※終了後、懇親会を予定しております。

会場：池坊短期大学 美心館 53 教室

(京都府京都市下京区室町通四条下る鶏鉾町 491)

<http://www.ikenobo-c.ac.jp/shisetsu/map.html>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は無料(非会員は500円 参加費は当日、会場でいただきます。)

申込方法：大図研京都ワンディセミナー申込フォーム

(<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20130525.html>)からお申し込みください。

申込期限：5月22日(水)

※申込み多数の場合、会場の収容人数を考慮し早めに締め切らせていただく場合があります。

[目次]

大図研京都ワンディセミナーのご案内	…	1
大図研ワンディセミナー「APU(立命館アジア太平洋大学)深訪と別府湯けむり温泉企画」	…	2
参加報告 別府湯けむり深訪記		河原茂記
大図研近畿3支部新春合同例会2013「中之島図書館：挑戦の歴史とこれから」参加報告	…	4
大図研近畿3支部新春合同例会2013に参加して		今野創祐

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大図研京都ワンディセミナー

「APU (立命館アジア太平洋大学)探訪と別府湯けむり温泉企画」参加報告

別府湯けむり深訪記

河原 茂記

APU (立命館アジア太平洋大学) のキャンパスから別府湾を見下ろす景観は、比叡山から見下ろすびわ湖周辺の眺望に似ている。

旅は京都駅ホームでおにぎりを食べている支部長との出会いから始まった……。

新大阪駅に集合した7名は、「のぞみ」に乗り込み、一路、西へ向かう。小倉駅で乗り換えの「ソニック」には、走って間に合うギリギリのスタート。米原あたりの積雪などの影響で、新幹線の遅れが出たため、まずはホッと目的地の別府へ……。別府へ向かう山手には、ハリウッドさながらの USA という表示が目をつけた。「うさ」という駅があり、その地名が喧伝されているのだ！

別府駅前で、現地案内役のライブラリアンたちと出会って、まずは、眼鏡をかけた劇的なオジサン<Shiny Uncle>像の前で記念撮影。近くの料理店で昼食をとってから、バスに乗り込んで、山手へと向かう。別府に設立された日本では珍しい大学は、留学生が半数を占めるという国際色が売り物だ。冷たい風が吹きすさぶキャンパスを歩いて、ライブラリーに向かう。用途別に設けられたエリア (Pangaea) が、見事に学生たちの要望にマッチした空間を提供している。ブルーの濃淡で構成された一階のカーペットが、海の街別府をイメージしていて、すがすがしい印象……。二階は、冬枯れした山林の色合いで、ほんとはグリーン色に替えたいらしい。セミナーと見学が終わって、別府の街に戻ったメンバーは、宿泊するホテルに到着したのも束の間、露天風呂で満天の空を眺めやる……。しかし、思っていたロケーションでもなくて落胆して、懇親会へ！

おいしい地元の料理とお酒に舌鼓を打ちながら、翌日に巡る温泉について、温泉博士からのプレゼンに聞き入る。刺身の盛り合わせに付けられたカボス (レモンのカットと違ってしまった!) が、大分カボスとの出会いだった (^ ^) ほど良い疲れで、早々にふとんに潜り込んだのだったが、他のメンバーたちは夜中まで歓談にふけていたらしい……。

さて、二日目は、七時前の日の出 (西に行くほど日の出は遅い) を宿泊した「花菱ホテル」の温泉で眺めることからスタートし、別府湾を見晴らせるレストランにてバイキング朝食でお腹をいっぱいにする。福岡支部 (九州勢) のメンバーとは別れを告げて、いよいよ温泉ライブラリアン率いる9名による温泉巡りが始まった！ 出発前にホテルのおみやげ店で見つけた自販機で JA 大分の「かぼすと日田梨」ペットボトルを買う。すっきりさわやかさが逸品で、毎日でも飲みたい飲料だ！

別府八湯を巡る SPAPORT (スタンプを押すパスポート) を手にして、スタンプ集めに……。8個貯まれば温泉初段らしいが、これは二泊三日の行程でなければムリで、今回は5個のスタンプで埋まった。

まずは、バスの日一日パス (ぐるすばフリー乗車券) を買って明礬 (みょうばん) 温泉「湯の里」で露天気分を味わい、湯の花を作っているところも見学がてら……。少し歩いてうらさびれた感じの「別府温泉保養ランド」に。ここでの楽しみは“混浴”露天風呂「泥湯」だったが、いくつかの風呂を経て辿り着いた露天では、期待も空しく……。 (><) でもでも、思ったよりもサラサラしていた泥で、お肌もツルツルに (^ ^)

ふたつも風呂に入ったおかげで、お腹も空いたので、1歳のセントバーナード犬レオくんが迎えてくれた「岡本屋」の売店で、念願の「地獄蒸しプリン（ふたりで二種類のプリンを味わったよネ）」や「とり天」などで腹の虫押さえる。

そこからバスで鉄輪（かんなわ）温泉へと向かい、遅い昼食を目指すがお目当ての店が一時間待ちだったので、民家街にあった食堂で、名物がたっぷり盛られた定食でまさにお腹いっぱい。ほぼ三時前にお店を出て、メとなる「むし湯」へ。八百年前に一遍上人が開いたとされる由緒あるサウナばりのむし湯は、石菖をたっぷり敷いた小部屋に浴衣がけで仰向けに寝そべること8分。すぐに全身から汗が吹き出てきた！ 薬草による癒しを味わったが、おかげでデトックス効果満点のすがすがしい身体と気分を満たされた。

温泉を3ヵ所めぐるとプレゼントがもらえる「ぐるすば BINGO」のビンゴも達成して、「ぐるすばオリジナルタオル」をゲット！グルメとスパを堪能した別府ツアーだった。

あちらこちらから吹き出ている湯けむりが別府のシンボルなのだ！

それにしても、アクティブ・ライブラリアンは頼もしい！京都支部 vs 福岡支部のバトルは次回以降の楽しみにしておこうか・・・非会員である私にもオブザーバー的参加でいいよ、と声掛け誘っていただいた支部長さんにも感謝です（^^）

参加された皆様、お疲れさま。そして、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



(かわはら しげき / 京都府立医科大学附属図書館)

大図研近畿3支部新春合同例会 2013
「中之島図書館：挑戦の歴史とこれから」参加報告**大図研近畿3支部新春合同例会 2013 に参加して****今野 創祐**

1. はじめに

大図研近畿3支部新春合同例会（演題：「中之島図書館：挑戦の歴史とこれから」、講師：前田章夫氏）に参加しましたので、概要を報告するとともに、私の感想を述べます。1月26日（土）に、大阪駅前第2ビル4階のキャンパスポート大阪にて開催されました。

2. 住友吉左衛門友純の挑戦—文化・産業の中心としての「大阪図書館」の創建

講師である前田氏の自己紹介の後、まず、大阪府立図書館の前身である、大阪図書館が創建されるまでの歴史について、お話がありました。住友家第15代当主であった住友吉左衛門友純を中心とした社会貢献事業として、大阪図書館の創建は始まったとのこと、私にとっては非常に興味深いお話でした。より具体的には、1897年に欧米諸国を歴訪した友純がカーネギー図書館などに感銘を受け、帰国後、中之島の問屋街で働く無学な人々の自習の場としての図書館の必要性を痛感し、図書館建設を目指した、という経緯があったそうです。すなわち、大阪における図書館建設のきっかけは言わば（産業支援の一環としての）生涯学習支援の側面が大きく、この点で、京都府立図書館の前身である京都集書院とは大きく異なるな、と思いました。（京都集書院は福澤諭吉らの提言によって創建されたわけですが、当時の京都では教科書が貴重で入手しにくいものであったため、学校や書店が教科書を貸与するという方式が採られており、こうした状況が福澤らによる図書館設立の提言につながったとされています。すなわち、京都では学校教育の支援のため、図書館の建設が進んだ側面が大きかったと言われています。）

3. 今井貫一（初代館長）の挑戦

続けて、初代館長である今井貫一の業績について、お話がありました。注目すべきは、今井は1903年から1933年にかけて、実に30年もの間、館長を続けたということです。これほどまでに長きにわたって、公共図書館の館長を同一人物が続けるということは、もう現代の日本においては、ありえないことでしょうか。もちろん弊害もあったのですが、同じ人物が館長を長く続けたことによって、可能となった長期的な改革や進歩もあったのではないのでしょうか。この間、大阪府立図書館では館外貸出制度も始まり（1908年）、大阪市内小学校への巡回文庫の開始（1909年）、児童閲覧室の新設（1910年。1921年に廃止）などの出来事がありました。また、1922年には両翼が増設され、実業家の利用に応じて専門図書閲覧部（理工図書・経済図書）が設置されるなど、専門図書館化が進んだそうです。

4. 中村祐吉（第4代館長）の挑戦

大阪府立図書館が現代的図書館へと大きく舵を切ったのは、4代目館長、中村祐吉の時代でした。中村が館長に就任した1949年、学習参考書など出納の申込みの多い図書約8000冊を一室に収容した上で開架式閲覧が開始されました。翌年、中村は英米の図書館を視察し、現代的な図書館の数々に衝撃を受けて帰国したといえます。その後、自動車文庫や児童室の開設（1951年）、ブックステーション（図書館未設置地域における小規模な図書施設）の設置（1952年）、商工図書室の設置（1953年）、主題別開架閲覧

制の実施（相談室・人文科学室・自然科学室などの開室。1962年）などの出来事がありました。

5. 府県立図書館としての自覚と挑戦

1980年代以降、充実する府内市町村図書館への協力業務の推進が、大阪府立図書館にとって課題となりました。当時はまだ、図書館協力を必要だと考える司書が少なかった中、1983年12月から、府内15の市立図書館への協力貸出・返却のため、図書館連絡車の試用運行が開始されました。また、1984年には図書館協力業務の充実を図るため、図書館協力室が設置されました。私は幼少時より大阪に住み、実家近くの公共図書館をよく利用していましたが、その際、当然のように利用していた大阪府内の他の公共図書館からの取り寄せサービスも、考えてみれば、いつかどこかで始まったサービスのはずです。その歴史についてこうして知ることができたことは、非常に有意義でした。

6. ビジネス支援への挑戦

2000年代の特筆すべき挑戦は、ビジネス支援の挑戦でした。2002年に大阪府知事直轄政策室に「中之島図書館のビジネス支援機能のあり方検討会」が設置され、2004年にはビジネス支援サービスが開始されました。具体的には、参考図書やビジネス関係雑誌などを置いたビジネス資料室を4室、デジタル情報室を1室、有価証券報告書などのマイクロフィルム資料等を置いた新聞室を2室設置するなどのサービスが始まりました。建物自体が重要文化財指定を受けているので、改修の際、クギを打つこともできないため苦労をした、というお話が印象的でした。

7. そして今、これからの中之島図書館

中之島図書館を取り巻く現在の大きな動きとして、2009年9月、大阪版市場化テスト監理委員会において、「府立図書館管理運営業務」が市場化テストの対象業務として採択され、民間開放が決定し、公募型プロポーザル方式により、株式会社図書館流通センターが委託先として決定した、ということが挙げられます。その結果、2010年度から市場化テストによる業務・組織再編が行われ、カウンター業務などが業者委託となりました。また、2012年6月、大阪市の橋下徹市長と大阪府の松井一郎知事が、19日の府市統合本部会合で、中之島図書館を廃止し、別の施設として活用する方針を表明したことも、非常に大きな動きです。

そうした動きを受け、「明日の中之島図書館を考える会」という組織が発足しました。この組織は「住友家が中之島図書館を寄贈した本旨を尊重し、図書館としての活動の継続や更なる発展のための支援を行うとともに、大阪文化の発展に寄与することを目的」としています。（公式ウェブサイト <https://sites.google.com/site/nakalibforever/>より）

7. おわりに

最後に、中之島図書館の貴重な写真の数々（内装を撮影したものや、昔の中之島図書館を撮影したもの）を拝見し、質疑応答を以て終了となりました。印象に残った質疑応答を以下に二つ、記載します。

問：現在は図書館法によって図書館の無料利用の原則があるが、なぜ明治から昭和初期にかけては有料の閲覧券を発行していたのか。また、閲覧券購入の制度はいつまで続いていたのか。

答：図書館法が制定される昭和25（1950）年までその制度はあった。開館当初は有料利用のあり方に疑問が差し挟まれることもなかったが、GHQとの接触によって、次第に無料原則が図書館関係者に浸透していった。

問：ビジネス支援への挑戦は、大阪府からの要請を受けたものだったのか、あるいは図書館側からの自発的な試みだったのか。

答：図書館側からの試みであった。

大阪で生まれ、育った私にとって、中之島図書館は幼少時より「大阪のシンボリック的存在」といったイメージがありました。しかし、その歴史についての知識は、私は全くありませんでした。その歴史について学ぶ機会を与えてくださいました前田氏には、この場を借りて、改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(いまの そうすけ / 京都大学文学研究科図書館)

予告！

「同志社大学ラーニング・コモンズ見学会」

のご案内

日本最大級の規模を誇る、同志社大学のラーニング・コモンズの見学会を、他組織との共催により 2013 年 6 月中旬に、開催する予定です。

詳細につきましては、追って大図研京都支部ホームページやメーリングリスト [yurikamome](#) 等により、告知させていただきます。参加人数には制限がありますので、京都支部ホームページを見逃さないようご注意ください。

<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

どうぞ、お楽しみに！！

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に 2012 年度（大図研会計年度 2012.07 - 2013.06）に入っておりますので、2012 年度の会費の納入をお願い致します。また、2011 年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000（大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000）です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部（kyoto@daitoken.com）まで。